人のご縁で
でっかく生きろ

㈲クロフネカンパニー代表
中村 文昭

就職って金や将来性や世間体やない！

◇14◇

高3のとき、進路指導の先生が僕に「お前はもう就職や」と言って、単純明快に「就職とは何ぞや」という話を始めました。

それは「カネ」と「将来性」と「世間体」という内容でした。要は「給料は多いほうがええやろ？　だけど給料をたくさんくれる会社は入るのが難しい。会社は大きいほうが将来性がある。だけど大きい会社は入るのが難しい。名前の知れてる会社のほうが世間体がいい。だけどそんな会社は入るのが難しい。だからお前は逆を狙え。給料や世間体のことは考えず、近所の、小さい会社を狙え」って言われたんです。

だけど、僕は「絶対に違う」と言い張りました。それは僕の尊敬する大人が僕の近くにいたからです。僕の兄ちゃんです。僕の兄ちゃんはすごく頭がよくて、高校のときは地元の三重大学にストレートで入れると先生から言われていました。ところが兄ちゃんはカメラマンになるという夢があって、とても有名な先生にどうしても弟子入りしたかったので、何遍断られても足しげく通って、やっと弟子入りが認められたんです。

そして、親と大喧嘩をして、ちゃんと食っていけるか分からないカメラマンのアシスタントとして、一人上京していったんです。

□■　■□

上京する前夜、父親は「お前の為を思うて言うてるんや。大学に行け。将来の選択肢がなんぼでもできるぞ。カメラマンなんか絶対食っていけんぞ」って泣きながら兄ちゃんを止めようとしました。

でも兄ちゃんの意志は固く、最後には父親に向かってものすごいせりふを吐いたんです。

「お父さん、俺、カメラマンでメシ食うていかれんでも自分の始末は自分でする。だから心配せんでもええ。でもたった一つだけ自分がイヤだと思っている人生がある。それはお父さんみたいな人生や」って。

僕はそれを横で聞いていて仰け反りました。本人を目の前によくもそんな失礼なことを言うな、と。親父はキレて、親子でどつき合いです。そして親父はタンスからカネを取り出して、10万くらいあったと思いますが、それを兄ちゃんに投げつけて、「出て行け」と言ったんです。

兄ちゃんはその10万円を涼しい顔で拾い、家を出るときは、涙ぐみながら兄ちゃんを見ていた弟の僕に向かってニコッと笑ったんです。そのとき僕は「これ、兄ちゃんの思った通りの展開になったんじゃないか」って思いました。

そのとき、兄ちゃんの心の中には「上京してカメラマンとして本当にやっていけるんだろうか」みたいな不安なんて微塵もなかったように思えました。堂々とした姿で家を出ていく兄ちゃんを見たとき、僕は感動したんです。今は何にも考えてないけど、そのうち僕も兄ちゃんみたいになるんだろうなぁと信じて高校に行きました。

でも、高校に行っても僕は夢というものが全く沸いてきませんでした。それどころかバイクに乗ったり、酒を飲んだり、そんなことばかりやっていました。

（2月13日、高鍋町で行われた講演会にて／文責編集部）